

令和6年度 学校評価

	自己評価	学校関係者評価
I 教育理念	農協の相互扶助の精神を受け継ぎ、理念、目的、目標、到達度など学生要覧や建学の精神に示している。今後教育理念は変わらず運用していく。	【自己評価を承認】 時代の変化に対応できるよう、新カリキュラムの際にも見直しされているようです。また、母体である農協の精神も大切にされていることが良く分かります。
II 教育目標	全学年ががすべて新カリキュラムとなった。全学年の教育目標の評価を実施した。ほぼ8割程度が目標を達成している。今後はその成果を検討していく。	【自己評価を承認】 教育理念に合わせた教育目的が設定されています。主な就職先が厚生連の病院という地域密着型の施設ですので、学生も地域に目を向け、地域の特色をしっかり和捉えていくことができればさらに良くなると思います。
III 教育課程・経営	カリキュラム進捗計画に沿って進行できている。学生にも進捗がわかるように、学生要覧、シラバスは学生個人に配布している。教員の教育・研究活動の充実については、授業や実習業務が重なっているため、教員間で協力し時間確保に努めている。また、実習施設の指導力向上を図るため、教員と臨地指導者との合同会議を実施し、教育環境を整えている。実習先については臨地指導者の各研修の紹介や参加協力を継続している。	【自己評価以上の評価】 一部の実習先で臨地実習指導者が不足しているということで評価2を付けている項目があります。しかし、学校と病院の連携を密にされていることが伺えます、人的不足が補われていると思われますので評価3でよろしいのではないのでしょうか。
IV 教授学習評価過程	授業内容や展開プロセスなどの評価・検討は日々の業務、カンファレンス、カリキュラム検討会で行っている。学生が学習をわかる喜びへと発展していける工夫を検討している。また、思考を求める授業や実習においては、ルーブリック評価を取り入れ、学生が授業で求められている到達目標を達成できるように学習環境を整えている。教員は各研修会に参加し、教授内容・授業方法についての研鑽に努め、改善を図っている。	【自己評価を承認】 自己評価どおり問題ございません。
V 経営管理	専任教員の確保は、規程数(8人以上)は満たしている。実習と学内指導の兼務型であるため、ソフト面の充実のために人員確保をし教育体制を整え、業務改善を検討している。9月より新校舎移転となり今までの課題であったハード面は改善された。	【自己評価を承認】 教務の高齢化による今後の要員不足の懸念はありますが、厚生連病院でも、看護教務に興味のある人材を探し、育成していく方針があるようですので、今後の交流に期待いたします。
VI 入学	今後18歳人口は減少していく。静岡県西部地区の減少は緩やかではあるが、危機感をもって今後も対応を考えていく。年々受験者数が減少傾向にあり、入試日程及び受験科目を変更したが令和6年度の入学人数は定員に満たなかった。次年度はさらに公募推薦を検討し、入学人数確保に努めていく。	【自己評価を承認】 少子化や大学志向により、学生確保が全国的にも難しくなっている状況です。御校も学生の確保に難航されており評価2の項目があります。令和6年に新築移転され、交通の便や学習環境が改善されていること、大学にはない専門学校の強み等もアピールし学生確保に努めていただきたいと思います。また、厚生連の病院と連携し、高校生看護一日体験などを活用し、地域で看護師を目指す人材をさらに増やしていただきたいと思います。
VII 卒業就職進学	国家試験は、全国合格率を上回り、過去5年間としては100%である。また卒業時の到達状況は教育目標1と2が高値傾向を示し、自己理解・他者理解とともに、対象である生活者としての人間への興味関心を持った学びをしている。進学希望者はいなかった。卒業生の成長や活動状況などは、各厚生連関連病院の報告より把握している。	【自己評価を承認】 7年連続国家試験合格率100%の実績を評価します。自己評価どおり問題ございません。
VIII 地域社会国際交流	看護実践ステップアップ(広域看護活動)において、国際看護を教授している。海外看護活動経験者の講義を依頼している。地域活動としては、関連病院・近隣クリニックなどの行事運営などのボランティア参加を引き続き継続的に実施していく。	【自己評価以上の評価】 現在留学生が在籍していないという内容で評価2の項目がありますが、過去に受け入れた実績や、浜松という土地柄、海外からの移住による二世の学生等も多くいるなか現在の該当する学生が在学しており、夢に向かって頑張っているため評価3でもよいのではないのでしょうか。今後も人口減少が進むなか、在日外国人の人材活用も重要になってくると思います。
ix 研究	日々の授業の評価・まとめを次に活かしていくように、新校舎では環境の整備を検討している。今後は、関連病院や施設との共同研究も視野にいれていく。次年度は専門分野(看護学)の授業評価に取り組む。	【自己評価を承認】 近くに厚生連病院がありますので、厚生連の看護師と協同して研究を行い、学会等で発表していただきたいと思います。

※看護学校評価委員会 令和7年5月28日 場所:本校会議室
委員長 佐藤比奈子 (JA静岡厚生連遠州病院看護副部長)
委員 櫻井郁子 (静岡県看護協会常務理事)
委員 白倉久子 (本校元教務)
委員 梅原雄一 (厚生連本所:人事課長)

事務局 森田宏美 (学校長)
竹山徹 (事務長)